

2-1 各部の納まり詳細図

木造軸組下地

横張り

金具施工

1) 基本構成図・下地組図

1. 5尺×10尺

- 通気土台水切は胴縁組みを行う前に取り付け、防水紙を上にかぶせて施工します。
- 入隅部や出隅部などで胴縁が躯体に留め付けられない場合は、追加下地を設け、必ず下地に留め付けるようにします。
- 下地組みは図のように木胴縁を使用し、スギ材は厚み18mm以上、ベイツガ材は厚み15mm以上の乾燥材を使用します。
- 木胴縁の幅は45mm以上を標準サイズとし、左右接合部、出入隅部や開口部まわりなどの指定箇所には倍幅の90mm以上を使用します。
- 木胴縁はN65、CN65以上の釘またはφ3.8mm×50mm以上の木ビスを用いて、500mm以下の間隔で躯体に留め付け、仕上げ面の不陸(段差)が3mm以下となるように調整して施工します。
- 縦胴縁と開口部まわりの胴縁は30mm程度隙間を設け、通気する構造とします。
- 積雪地域では、積雪の高さまで補強胴縁を取り付けます。(P33参照)

